

平成 30 年度狛江市地域連携職員制度実施報告書

1. 実施の目的

地域住民と市職員が本来の職務とは別の形で接することで、より市民や地域に寄り添う市政の実現へと繋げる。

2. 対象職員

入庁 2～4 年目の職員 24 名（任期 2 年）

3. 平成 30 年度の実施内容

対象職員は、以下の事業のいずれかへ参加し、地域で活躍する市民団体との交流を図ることで、協働の視点を学び、今後の職務へと活かしていく。

①市民フォーラムへの参加（平成 31 年 1 月 12 日開催）

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会が開催する市民フォーラム「第 3 回狛江☆サミット～つながろう！仲間 見つけよう！居場所 始めよう！ここから」へ参加する。

②こまえくぼワークショップへの参加（平成 31 年 3 月 16 日開催）

公益活動に参加する市民と市職員がお互いの理解を深め、市民協働への意識を高めることを目的として、こまえくぼ 1234 が開催するワークショップへ参加する。

○平成 30 年度参加職員

	部	課・係名	氏名	任期
1	企画財政部	秘書広報室広報広聴担当	國頭 麻里	1 年目
2	企画財政部	政策室政策法制担当	北川 香織	2 年目
3	企画財政部	政策室協働調整担当	石 由貴	2 年目
4	総務部	総務課庶務統計係	福井 亮	2 年目
5	総務部	職員課人事研修係	館山 麻梨菜	1 年目
6	市民生活部	課税課住民税係	木目田 佳孝	1 年目
7	市民生活部	納税課管理係	肥田 佳子	2 年目
8	市民生活部	地域活性課地域振興係	田邊 勇貴	2 年目
9	福祉保健部	地域福祉課地域福祉係	岡本 瑛	1 年目
10	福祉保健部	福祉相談課相談支援係	小久保 恵	2 年目
11	福祉保健部	保険年金課国民健康保険係	三角 紳太郎	2 年目
12	福祉保健部	健康推進課健康推進係	山本 久美子	2 年目
13	児童青少年部	子育て支援課手当助成係	後藤 真櫻	1 年目
14	児童青少年部	児童青少年課保育係	藤田 真衣	2 年目

15	環境部	環境政策課環境係	谷野 龍慈	2年目
16	環境部	下水道課下水道管理係	阿賀岡 桂	1年目
17	都市建設部	まちづくり推進課都市計画担当	石川 侑希	2年目
18	都市建設部	まちづくり推進課都市計画担当	関 源次郎	1年目
19	都市建設部	道路交通課道路管理係	佐藤 弘明	1年目
20	都市建設部	整備課土木整備係	嘉無木 昌之	2年目
21	教育部	学校教育課学務保健係	和田 美南	2年目
22	教育部	指導室指導教職員係	檜崎 智加	2年目
23	教育部	社会教育課社会教育係	北島 加奈子	1年目
24	教育部	公民館事業係	内田 駿介	2年目

○平成30年度の活動内容

①参加と協働フォーラム「第3回狛江☆サミット～つながろう！仲間 見つけよう！

居場所 始めよう！ここから～」

日時：平成31年1月12日（土）午後1時～3時30分

場所：中央公民館地下ホール

タイムスケジュール：

13:00 開会の挨拶

13:10 各団体の発表（5団体）

- ・子育ての輪
- ・狛江市視覚障害者の会
- ・狛江市ラグビーフットボール協会
- ・comaecolor
- ・祖師谷みちとの遭遇

14:25 休憩 ※参加者は会場内のパネル展示を見たり、各々交流を行った。

14:35 グループトーク（4グループ）

15:05 各グループから感想発表

15:25 閉会の挨拶

②「こまえくぼワークショップ～みんなで考える「協働」～」

日時：平成31年3月16日（土）午前10時～正午

場所：こまえくぼ1234

タイムスケジュール：

10:00 開会

10:05 【第一部】基調講演「協働とは？」 講師：山岡義典さん

10:25 【第二部】協働事業事例発表（3団体）

- ・NPO法人こどもの遊びと育ちをささえる会・狛江

- ・NPO 法人フードバンク狛江
- ・NPO 法人狛江共生の家

12:00 閉会

#### ○参加した職員の感想

##### <「第3回狛江☆サミット」参加職員>

- ・各団体の発表及びグループトークを受けて、実際に活動するに当たって、団体が集まって打合せをするスペースがない、公民館の抽選を行う時間にリタイア組等しか参加できない、今までの抽選方法から変更すると高齢者に難しい等様々な問題があることを知りました。また、実際に活動する場所を探している団体も多く、市としては場所の提供ができる仕組み及び公民館や地域センター等の会議室の予約方法の整備ができるのではないかと思います。素晴らしい取組を行っている団体が多くありましたが、市民の多くは団体のことを知らないと思うので、広報紙等既存の媒体ではなく、別の方法で周知ができると更に活動できるのではないかと思います。
- ・サミットに参加して、子育てや障がい、スポーツ等幅広い分野において市民活動が行われていることを学ぶことができました。また、多くの団体が活動場所の確保や資金の調達、活動の周知、団体間の横のつながり等で課題を抱えていることを知りました。今後、市職員として又は一個人として少しでもできることがあれば、協力していきたいと思いました。
- ・地域連携職員としてサミットに参加する意味を明確にすることが大切だと感じた。地域連携職員としての振る舞いが理解できていないこと、また市民団体側も私達を市職員として捉えているため、市への要望や質問をされる方が多かった。来年は事前に地域連携職員に向けて、サミットの内容や参加の意義、どのような立場で臨むべきか説明する場を設けた方がより良い交流ができると思う。
- ・どの団体も、広報や資金調達等とても苦労しているのだなと感じた。仕事や家庭と両立しながら団体の活動を続けるには相当の熱意がないと難しいと思った。様々な団体の話を聞いて有意義だった。地域連携職員として、またこのような機会があればぜひ参加したい。
- ・市民団体の方々の生の声を聞いたり、実際に話をすることで、それぞれどのような思いや目的を持って活動されているのかを実感でき、有意義な時間でした。普段書面上で団体の名前を見かけたりすることはあっても、実際の詳しい活動内容等は知らなかった分、今回のサミットで得ることは多かったです。今後も市民団体の方々の活動に市職員として何ができるのかを考え、行動していきたいです。
- ・普段聞けない団体の本音を聞いて参考になった。
- ・今回のサミットで様々な市民団体の方々の話を聞くことができ、イベントや団体を企画・運営する上で、参加者を集めることも重要だが、それ以上に企画・運営まで協力をしてくれる人を育てなければいけない、というお話が非常に印象に残った。今回参加されていた市民団体はどの団体もユニークで幅広い世代と関われる貴重な活動を

行っている。このような団体をこれからも存続できるよう、どのように行政が関わっていくべきか、それらを考える良い機会になったと思う。

- ・市民協働団体、ボランティアグループの皆様が、空家の利活用について非常に興味をもっていることを知ることができました。狛江市は、空家の利活用に関する事例はなく、隣の世田谷区と比べると道筋ができておりません。需要が非常にあることを知れたので、今後の参考にしていきたいと思いました。
- ・個人的にグループトークの時間が短かったと思います。せっかく様々な団体の方と市の職員が一堂に会する機会なのに勿体無かったように思われます。また、どういった目的で、何を期待して、地域連携職員を狛江サミットに参加させたのかといった方向性のようなものを事前に示していただけると、各職員議論に入りやすかったと思います。「子育ての輪」の方が世田谷区と狛江市を比較して、集まる場所がないと仰っていましたが、まさに狛江市のまちの課題だと思えます。どうしても行政がハードを新規で作るのはハードルが高いため、市として既存の空き店舗や空き家をコミュニティスペースとしてリノベーション等に取り組む民間事業者を支援していくというスタンスの方が、実現性は高いと個人的には思っています。

#### <「こまえくぼワークショップ」参加職員>

- ・協働について考える良い機会となりました。特に事例紹介では、自分の所属する子育て支援課が協働してできたプレーパークについて一部紹介していただき、オープンするまでの経過を知ることができて良かったです。グループワークでは、実際に自主的に活動されている方の思いを聞くことができ、良い刺激になりました。
- ・プレーパークやフードバンク狛江の代表者の話や、共にディスカッションをすることができ、良い機会でした。市民の方と職員が顔見知りになれる機会があると良いと思います。
- ・市民の方と直接お話をでき、とても良い経験をさせていただきました。
- ・狛江市について、市民の方と直接話し、意見を交換することは市職員として非常に有意義であり、また、個人的にも楽しかった。現状の業務に活かせるかは未知数だが、今回のワークショップで出た皆様の意見を踏まえ、業務に励みたい。ワークショップ運営に対するものではないが、中堅以上の市職員も地域連携職員として参加させるべきだと考える。今回のワークショップでは皆が思う狛江市の課題を踏まえて議論した。地域連携職員には若手が集まっているので、どうしても経験が足りず、現状の狛江市の課題に対する意見がすぐに出づらいつぶらいつぶら部分がある。その点、中堅以上の職員であれば、狛江市に対する知識等も経験に応じてあるので、意見も出やすく、議論もより活発化するのではないか。以上を踏まえて、今回のようなワークショップを開催し、そこに地域連携職員が参加するのであれば、より密な議論を市民とするために中堅以上の市職員も参加していただく必要があると考える。
- ・NPO法人で活躍されている市民の方の生の声を聞ける貴重な機会でした。市民の方々が行政の力をもっと活用して、活動の幅を広げたいと感じていることが強く伝わりました。事例紹介の時間がスケジュールより押ししていましたが、市民の意見発信の

場という色が強く出ていたのが理由かと思います。グループごとのワークショップでも大半の時間を一人の市民の方が話していたりしたので、しっかりとイベントの方向性を決める必要があるかと思いました。

- 事例紹介の3名からは熱いパワーと信念が伝わってきました。ワークショップの時間が予定の約半分になってしまったのが残念でした。多くの方が、狛江に「居場所」を求めていることに驚きました。
- 協働とは何か。漠然としたイメージでしかなかったものが、市民の方たちと直接話す機会を得て、リアルに感じることができました。話していて強く感じたのは、「居場所づくり」が求められているということです。また、NPO法人の方の熱意とパワー、問題意識の高さには驚かされました。普段から、そういった視点で街を歩いてみる必要性を感じました。
- 市でどのような市民団体があり、どのような活動をしているのかの一部を知る貴重な機会になりました。ワークショップは、参加市民の方の活動内容も様々な中で案の一つに絞るのが難しく感じました。大まかなテーマを設定し、そのテーマに合わせた市民協働事業を考えてくださいという方法も良いかもしれないと感じました。
- 協働の事例発表を聞き、どの団体もアンケートの実施、報告書の作成等を行い、最後までしっかりと成果を出されておりました。仕事をしながらの場合、ハードルが高いと感じました。事例発表での時間をとり、苦労した点等、もう少しお聞きしたかったです。
- 狛江市内で実際に活動する方々から出る意見として共通することは、「他団体と交流する機会がほしい」ということであった。市役所には、そのパイプ役を担ってほしい、市役所内でも縦割り業務ではなく、横の繋がりを持ってほしいという意見が出た。今回伺うことができた意見を参考にして、今後の業務に活かしていきたい。
- 市民と行政が協働でできることをテーマに、こんなことができたらいいなと思うことをワークショップ形式で自由に話し合った。その中で、子どもから高齢者、また赤ちゃんを育てる子育て世代等、多世代にわたって様々な人々が集うことのできる居場所づくりを望む声があった。人と人の横の繋がりだけではなく、縦のつながりも築けるような場所ができると良いと感じた。
- 市民の方々と話し合う場が新鮮だった。市民団体の活動内容やどのように努力を重ねていったのか等、もう少し話を伺いたいと思った。他にどのような団体があるのか、興味を持った。
- 協働とは、異種・異質の組織同士が共通の社会的な目的を果たすために、対等な立場で協力して働くことであり、そのためには個々人の参加が不可欠と学びました。参加には学習が必要で、学習により新たな情報を得て、共通課題の理解が促進されるため、更なる相乗効果が期待されます。その事例報告を目の当たりにすることで、机上の空論ではないことを実感しました。また、多くの市民の方々ともワークショップで交流することで、様々な活動をされている方々の実際の声を聞くことができ、刺激になりました。

- ・狛江市で協働事業を行っている団体の発表を聞き、様々な団体が協働を行っていることを知ることができた。また、事例発表後に行ったワークショップは、発表の時間が延長したため短時間となってしまったので、もう少し意見交換をできる時間があれば良かった。